

早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博士論文概要

論文題目

多義的な「遊び」を基軸とした空間の実践的研究

- 「Play Tectonics」手法を用いた建築的試み-

Architecture design based on polysemantic characteristics of PLAY

- Experiments using the method of "Play Tectonics"-

申請者

小林 恵吾

Keigo KOBAYASHI

2022年12月

本論では、「遊び」と建築との関係性についての分析と、設計における手法としての「遊び」の実践的有用性について論じている。社会の縮小や、人々の生活スタイルの変化、デジタル化の加速などにより、建築を取り巻く世界はひとつの過渡期にあるといえる。物理的にも、時間においても、多様な余白が生じる時代において、「遊び」と建築との関係を研究することは重要であると考えられる。「遊び」に言及した歴史は長く、その多義的な意味や、その複雑な構造から、これまで多くの哲学者や心理学者、生物学者や社会学者などが扱ってきたテーマである。また、その解釈や意味は、時代を追うごとに変化してきたとも言える。その一方で、「遊び」は人間の根元的な行動の一つであり、建築との関係も深い。こうした「遊び」と建築との関係性の全貌について述べている論文は未だない。そこで、まず1章では、「遊び」と建築の関係性を明らかにし、それがデザイン手法としても有効であることを明らかとすることを本論の目的として定め、文中での「遊び」の使用上の定義について明確にしている。

2章では、歴史的な観点から「遊び」がどのように解釈され、その意味について捉えられてきたのかの変遷を、主に文献や言説などからまとめている。産業革命期以降の子供の発見と共に「遊び」の意味も発見され、主に大人になるための準備や、労働に対する余暇としての位置付けだったものから、20世紀に入り、次第に人間の発達段階における過程のひとつであるという解釈や、子供に限らず「遊び」が文化の根源であるといった解釈がされるようになる。その後、次第に「遊び」の本質的な意味として、行為や行動よりも、ある様態のことを指し、そこに中動態との強い関係性を見出すことに至る流れを提示している。また、芸術と中動態との強い関係性があることを踏まえ、本質的な意味での「遊び」と建築との間にも同様に深い関係があることを導き出している。

3章では、2章で示した時代ごとに変化し多様化する「遊び」の解釈が、どのように建築における議論や具体的な作品などに影響を及ぼしているのかを明らかにしている。20世紀初頭における建築では、CIAMの影響から「遊び」は目覚ましい技術発展によって増えると予測された残余時間としての余暇として解釈されており、主にスポーツ競技や運動のための空間として、都市計画スケールにて導入されており、20世紀以前までの「遊び」の余暇としての解釈との関連性を明らかにしている。その後、1950年以降のTeam Tenの時代となると、アイクやスミソン夫妻は、「遊び」を隔離した空間としてではなく、都市の中に連続した状態として存在すべきであり、自由で多様な活動の舞台となりうる街路空間こそ、適した「遊び」の空間だとして、遊び場の提案以外にも、建築自体への都市的街路空間の導入といった方法で、「遊び」の建築化に挑んでいることに言及している。特にアイクによる年齢層別に分けられた孤児院の計画案では、人間の発達段階とそこでの「遊び」の重要性を説いたピアジェなどによる見解と強い関係性があることを明示している。一方で、50年代から70年代にかけて活動を展開したシチュアショニスト・インタ

ーナショナルはホイジンガによる「遊び」の定義に強い影響を受けていることを認めており、市民の都市への権利の復権のためのツールとして「遊び」を捉えていたことを明らかにしている。また、シチュアショニストのメンバーの一人であったコンスタントは、「遊ぶ人」のための仮想都市「ニューバビロン計画」の提案に至っており、「遊び」の芸術表現との関係や自己実現性の解釈との関連性が見出されている。筆者は、これらと並行して、「遊び」と演劇の関係にも言及し、20世紀初頭の演劇作家ブレヒトから、演出家ジョアン・リトルウッドとセドリック・プライスによる「ファンパレス（遊びの館）」に至る経緯や、同時代の演劇を交えたコミュニティー施設の提案を、「遊び」の特質である虚構性や偶然性などに照らしてその影響を検証している。その後、建築では主にベルナード・チュミやレム・コールハースによって、アンリオの提唱した「遊び」の重要要素でもある偶然性や不安定性を、仕組み（プログラム）のデザインによって試みた経緯や、コールハースのボイドの戦略が、「遊び」の解釈における「遊隙」と「遊動」の関係の実践的試みであることに言及している。最後に、建築における近年の多様な他者性を踏まえた動向や、竣工後の利用実態までの関心の向上を、2章で述べた「遊び」の中動態との関係に照らすことで、建築における「遊び」が同時代における「遊び」の本質的解釈と連動していることを明らかにしている。筆者は、こうした建築と「遊び」の関係の検証から、そこに積層状の構造を見出し、それを「Play Tectonics」と定義している。

4章では、これまでの筆者自らの設計活動において、一貫した「遊び」との関係性があることや、それぞれの作品が「遊び」のどのような意味や解釈に基づいているのかを「Play Tectonics」構造に照らして検証している。具体的には、これまでの作品や提案を、その特徴別に実践領域A～Eに分類し、筆者が「Play Tectonics」における異なる階層を横断的に捉え、その中に自らのデザイン特性を見出していることを検証している。それはつまり、「Play Tectonics」が建築と「遊び」の関係構造であると同時に、デザイン手法となりうることを明らかにしている。

5章では、この手法としての「Play Tectonics」を用いた具体的な設計提案を介して、この手法の可能性や重要性について検証している。提案の対象を、都心部における鉄路と駅舎とし、本来効率性や機能性が求められた都市の公共機能が、その段階的な整備経緯や鉄道会社同士の競争背景によって、必ずしも理想的な状況にないことを背景に、そこに生じている物理的な余白に対する新たな可能性を、「遊び」を用いた設計手法によって更新する試みである。また、近年のライフスタイルの変化や人々の行動の変化によって生じつつある、時間の余白に対する空間的な応答の意味も込められている。具体的には、3つの路線の交わる高田馬場駅において、立体的に交差する鉄路と駅舎の平面的断面的余白を「遊び」における「遊隙」と位置付け、そこに駅舎として求められる効率性や機能性を重視した動線の整備に加え、「Play Tectonics」の各層の特質を適用することで、「遊動」としての人々のふるまいをデザインし、都市の主要機能である駅の新たな在り方を提案している。「Play

「Tectonics」における最下層の創造手法における他者性を、この地域のコンテキストでもあるかつての田畑のパターンから抽出し、多様かつ複雑な形状と、効率性から導かれた動線との関係性を主たるデザイン行為として位置付け、その上で、上層での偶然性や不確定性を引き出す仕組みや、演劇性、街路的な特性、運動設備や遊び場要素を横断的に交えていく手法を試みている。結果として生成された駅空間は、体験する側の中動的な行動を誘発する場となり、都心部における人々の多様かつ自由な活動の同時多発的な状態を支え、実空間における人と人の出会いのための「遊び」空間となることを示している。

6章では、本論の結論として、「遊び」についての時代ごとの多様な解釈や検証が、建築領域においても連動しており、多様な形での「遊び」の空間化や建築化が試みられてきたことを明らかにしている。また、「遊び」と建築の間には、筆者の定義した「Play Tectonics」が存在しており、それは構造でありながら、手法としての有効性が、筆者による実践や設計提案によって実証している。メタバースといったバーチャル空間の発展が見込まれる時代において、この「遊び」を介した建築領域での試みは、人々にとっての実空間の重要性を再考するためのツールであり、また、縮小時代と言われる今後のわが国において、マイナスに捉えられがちな状況に対しての、前向きな姿勢で取り組むための有効な手法となることを期待する。

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名： 小林 恵吾

印

(2022年 12月 現在)

種類別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
研究・論文	<p>「Production for Reduction」 Ardeth Journal, #6, Spring 2020, pg221-232, 査読付論文 角尾怜美、島村知弥、中川純、小林恵吾、田辺新一、高口洋人、浅野寛人、池川隼人、伊原さくら、小松昇平、丸山賢人、三好諒、万木景太、若山麻衣、エネマネハウス 2015 における『ワセダライブハウス』の提案と実証、日本建築学会技術報告集、54、pp.545-548、2017.6、</p>
著書・記事 ○ ○	<p>単著「Zoom化していた実空間からの再考」LIXILウェブメディア「これからの社会、これからの住ま 『新建築』2022年7月号「TRACK/TRUCK」 『新建築 住宅特集』2021年9月号「House +O」 「Spaces for Further Human Freedom」Port Magazine, 2021/8/12 「建築教育の国際化のこれから」座談会内容掲載、『建築雑誌』2021年11月 共著「Urban Humanities: New Practices for Reimagining the City (Urban and Industrial Environments)」 The MIT Press April 7, 2020 pp.76-84 小林恵吾、クリスチャン・ディマー 「研究室プロジェクト紹介」J I A 修士設計展作品集2020、小林恵吾 単著「Botscape」Countryside, A Report, 2020 日3月、小林恵吾 「ゴードン・マッタ＝クラーク展 報告」稲門建築会NW107号、2019年4月 共著「アップデートする建築とプログラマー的建築家」雑誌「広告」vol.413、pp.289-312、 2019/7/24、小林恵吾・柴原聡子 「未来に挑む6人の研究者たち」早稲田理工 byAERA 2019、2019/2/26 「WASEDA ONLINE」オピニオン：「オリンピック後の東京：世界が注目するサイエンス・フィクション」2017.12.18 「ものづくりNext10段」日本経済新聞 記事 2018/12/18 共著「Mutation in Spaceゴードン・マッタ＝クラーク展」二手舎、2018年6月 「暮らしを愉しむ ワセダライブハウス」特集：建築を愉しむ、建築雑誌、2016年2月 田辺新一、長澤夏子、高口洋人、小林恵吾、中川 純、ゼロ・エネルギーハウス ―新しい環境住宅のデザイン、早稲田大学理工研叢書 No.27、萌文社、2017 年 9 月 ISBN：978-4-89491-337-0 難波和彦、中川純、他 15 名、建築家の読書塾、みすず書房、p.202-208、2016年1月 『+20年の推測から確信へ』（著書「建築家の読書塾」投稿）みすず書房、2015 年12月 『住宅建築』2016年4月号「ワセダライブハウス」 『新建築』2015年12月号「ワセダライブハウス」 「特集 次代の変革者100人 新世代が建築の枠組みを変える」日経アーキテクチュア、2014/4 『新建築』2014年9月号「ヴェネチア建築ビエンナーレ・日本館展示会場デザイン」 『CASA BRUTUS』2014年8月号「ヴェネチア建築ビエンナーレ・日本館展示会場デザイン」 『ワガママが住む矛盾を解消する』（建築雑誌 2014年9月号 投稿）</p>
講演等	<p>「本棚から都市を越える」カタリスト・トーク、六本木アカデミーヒルズ、2022/2/25 「Botscape」ベルサイユ建築国立学校、2021/6/20 「Play-Around -建築と遊戯について-」株式会社三菱地所設計、2021/5/27 「Re/Play」ICS College of Arts, 2021/2/8 「International Architectural Education Platform 東京大学」2020/11/17 「シアターコモンズ'20 コモンズ・フォーラム#2「芸術と公共」」2020/3/3 「『geidaiRAM2 - 個室都市東京』をめぐって」TOKYO2021、2019/08/19 「Factory for Urban Living」シンポジウム、2018/3/17-4/1 韓国、ソウル 「Growing vs Shrinking」ARCASIA Student Jamboree 2018、2018/9/10 「ゴードン・マッタ＝クラークと開口」窓研究所Interviews、2018/9/5 「建築業界におけるキャリアー海外事務所での仕事ー」新建築社xX-LAB、新建築社青山ハウス、 2017/8/20</p>

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名： 小林 恵吾

印

(2022年 12月 現在)

種類別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
講演等	<p>「ワセダライブハウスと大型パネル工法の可能性」 工務店等と林業・木材加工業の連携による住宅づくり等への支援事業セミナー、大分物語協議会、2016/12/20</p> <p>「建築における日本近代化100年の「倉」とは」 第14回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展レビュー・トーク、国際交流基金、2014/4/17</p> <p>「Re/Playtime」 明治大学 I-AUD Evening Lecture Series, 2018/11/2</p> <p>「Indesigning -OMA中東プロジェクトを通して-」 2013/5/29</p> <p>「HouseからLivingへ」 House Vision 2013、2013/03/17</p> <p>建築新人戦座談会 2020/2021</p> <p>日本建築学会大会学術講演履歴</p> <p>「都市における予定地の暫定的空間利用に関する研究 東京都内の利用実態分析を通して」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp1364-1365、2020/09、村中祥子、小林恵吾</p> <p>「Cedric Priceの情報技術に対する建築的解釈と後期作品に与えた影響に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.509-510、2020/09、小川真平、小林恵吾</p> <p>「建築における『Ugliness』に関する研究 -Robert VenturiとRem Koolhaasに関する分析を通して-」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp505-506、2020/09、竹中遼成、小林恵吾</p> <p>「1960-70年代の西洋建築構想における日本の広場の特性に関する研究 -Archigram及びCedric Priceの作品分析より-」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp507-508、2020/09、棚田有登、小林恵吾</p> <p>「Constant Nieuwenhuys -“New Babylon”の概念の展開について -後期New Babylonの絵画作品にみる空間的視点-」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.471-472、2019/07、柿木瑛理香、小林恵吾</p> <p>「Gordon Matta-Clarkの空間の捉え方に関する研究 〈Building Cut〉の写真作品と3次元モデルを活用した分析を通して」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.249-250、2019/07、中村竜太、小林恵吾</p> <p>「空間の抽象化手法と建築要素との関係に関する研究 Royal Shakespeare Companyによる公演「Romeo and Juliet」の舞台装置分析を通じて」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.137-138、2019/07、床尾楓、小林恵吾</p> <p>「都市における冒険遊び場の運営と利用に見るその波及効果に関する研究 東京都23区の実態調査を通じて」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1025-1026、2019/07、河畑淳子、小林恵吾</p> <p>「Cedric Priceの思想および設計手法における演劇ワークショップ概念の影響に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.955-956、2018/09、西田安里、小林恵吾</p> <p>「インフォーマル市街地における外部空間を構成する要素と路上活動の関係に関する研究 -ムンバイ・ダラヴィの実態調査から - その1 都市空間の調査と住居形態の類型化」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 1151-1152、2018/09、野村健太郎・百武天、小林恵吾</p> <p>「都市居住形態の転換における地域コミュニティーの継承メカニズムに関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 11 89-1190、2018/09、渡邊真奈、小林恵吾</p> <p>「道路予定地の市民による利用実態とその有効性に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、p.923、2017.9、熊澤綾乃、小林恵吾</p> <p>「都市の空間再生産性に関する研究 -東京主要駅圏における警告と監視の実態調査を通じて」 日本建築学会大会学術講演梗概集、都市計画、p.311、2017.9、藤井隆太、小林恵吾</p> <p>「高密度都市上海における居住空間の研究：家具の分布と附随する行為からみる住まいの現状」 日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、p.443-444、小林恵吾、落合葉子、古谷誠章</p>
作品等	<p>「TRACK/TRUCK」 2022年 瀬戸内芸術祭、8月2022年</p> <p>「WAGNER PROJECT 金沢」会場構成デザイン、金沢 2 1 世紀美術館、1月2022</p> <p>「House +O」 指扇、埼玉、6月2021年</p> <p>「あなたでなければ誰が？」会場構成、『ルール展』 21 21Design Site, 6月2021</p> <p>「Curiosity-Go-Round」 Creative Project Base、銀座、東京、3月2021</p> <p>「WAGNER PROJECT 大分」演劇会場計画、祝祭の広場、大分市、10月2020</p> <p>「ベゾアール（結石）シャルロット・デュマ展」会場計画、銀座メゾンエルメス、6月2020</p> <p>「銀座エルメス事務所兼倉庫改修および什器デザイン」 2020/12</p> <p>「ヘルダーリン・ヘテロトピア」空間体験アプリケーションデザイン、2020/10</p>

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名： 小林 恵吾

印

(2022年 12月 現在)

種類別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
	<p>「マクドナルド・ラジオ大学 香港」2020/8 「模型都市東京」展会場計画、建築倉庫ミュージアム、2月2020 「WAGNER PROJECT Frankfurt」会場構成デザイン、Mousontrum劇場、ドイツ、フランクフルト 「Countryside展」展示内容一部作成、グッゲンハイム美術館、NewYork, USA 「ワーグナー・プロジェクト」舞台設計デザイン、神奈川芸術劇場、2017.10.20-28 「McDonald's Radio University」および「European Thinkbelt」、Künstlerhaus Mousonturm, ドイツ、フランクフルト、2017.3 「Common Matters」展示デザインおよびコンテンツ制作、ソウル都市建築ビエンナーレ 2017 "IMMINENT COMMONS" Cities、2017.9.2-11.5 韓国、ソウル DDP 「Ghost Guides to Tokyo 2020」展示、2017.7.25 芝浦ハウス 「Production for Reduction」展示、Factory for Urban Living / 2018.3.17-4.1韓国、ソウル 「M-house」（東京都世田谷区）（計画） 2015 「ワセダライブハウス」（神奈川県横浜市） 2015 「湯島1丁目留学生寮」（東京都文京区）（計画）2014 「渋谷1丁目複合ビル」（東京都渋谷区）（計画）2014 「ヴェネチア建築ビエンナーレ・日本館展示会場デザイン」（ヴェネチア・イタリア）2014</p> <p>以下 Office for Metropolitan Architecture設計事務所にて 個人住宅（ドーハ、カタール）基本設計をプロジェクトリーダーとして担当 2012 カタール・芸術倉庫計画（ドーハ、カタール）25,500m² 倉庫、ホール、研究設備、学校等 基本計画をプロジェクトリーダーとして担当 2011-2012 カタール・メディアシティ（ドーハ、カタール）413,000m² テレビ局施設、オフィス、博物館 調査・都市計画をプロジェクトリーダーとして担当 2011-2012 アルバイカー空港ホテル1、2（ドーハ、カタール）56,000m²・26,000m²ホテル施設、商業施設 基本設計をプロジェクトリーダーとして担当 2011 ダマスカス国立博物館（ダマスカス、シリア）44,000m² 博物館機能 設計競技案をプロジェクトリーダーとして担当 2011 ガダメス/セバ都市計画（ガダメス/セバ、リビア）ガダメス 580,000m² / セバ 89,000m² 基本計画をプロジェクトリーダーとして担当 2010 新アル・シャマル都市計画（シャマル、カタール）12km² 住居、商業、オフィス、文化地区 設計競技をプロジェクトリーダーとして担当 2009-2010 カタール財団 HQビル（ドーハ、カタール）2015年竣工 30,000m² オフィスビル、講堂 基本/実施設計をプロジェクトリーダーとして担当 2006-2009 カタール 教育都市中央図書館（ドーハ、カタール）2015年竣工 47,000m² 図書館機能、展示室 基本設計を担当 2006-2007 ロスチャイルド銀行本部ビル（ロンドン、イギリス）2012年竣工 13,000m² オフィスビル 基本設計・実施設計を担当 2005-2006</p>
受賞	<p>「あなたでなければ誰が？」第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品 「WASEDA LIVE HOUSE」エネマネハウス 2015 最優秀賞 ○ 2014年ヴェネチア建築ビエンナーレ日本館展示計画プロポーザル競技 採択 渋谷1丁目仮設ギャラリーパピリオン指名設計競技 採択 2014/9-2015/5 2013年6月-2013年12月 順天堂大学留学生寮設計競技 上位5チームに選出 カタール 教育都市中央図書館 Excellence in Concrete Construction Award of the American Concrete Institute (ACI) カタール 教育都市中央図書館 Shortlisted for the Aga Khan Award ロスチャイルド銀行本部ビル 2012 RIBA Award for excellence ロスチャイルド銀行本部ビル New City Architecture Award for 2011 日本建築学会設計競技入選作品-子どもの居場所 タジマ奨励賞 2001</p>
社会活動	<p>日本建築学会・建築教育の国際通用性に関わる戦略小委員会 日本技術者教育認定機構 (JABEE) 日本建築学会・アジア建築交流委員会 日本建築学会・環境適応に関する特別調査委員会</p>